

街並みテクテク No. 14：武蔵小金井駅～調布駅（2024-5-19）

参加者：碓貴臣、岸敦夫・美智代（夫妻）、佐熊範和、染谷ミドリ、高野泰三郎、黛政男、三木和幸、木村芳一（敬称略；計9名）

行程：武蔵小金井駅～調布駅 約7km

武蔵小金井駅→はけの小路→武蔵野公園→野川公園→大沢の里水車経営農家→国立天文台→調布駅

・ほどほどに曇っていて歩きやすい日でした。「はけ」（国分寺崖線の崖）の豊富な湧水を集めて流れる野川に沿って歩き、水車小屋および天文台を見学しました。その見学時間が長かったので、予定していた神代植物公園と深大寺を省き、バスで調布駅近くの懇親会場に向かいました。

・野川に沿って、広大な武蔵野公園と野川公園が広がっており、子供たちは川の中で魚捕りに夢中であり、また広場では多くの人がバーベキューを楽しんでいました。我々は豊かな自然が残る、野川に沿う道を、懐かしい気持ちで歩きました。

・大沢の里水車経営農家は1817年から水車経営に携わってきた峯岸家であり、水車は精米と製粉用に使用したもので、直径4.6mの木（アカマツ）製水輪が動いていました。現在の新車の心棒は鉄製であるが、杵を持ち上げる搗心棒はカン製で、軸受部は油を染み込ませた米ぬかを潤滑剤として使用し、摩耗した部分を容易に交換できる構造となっていて、昔の技術の高さを示していました。本水車は日本機械学会認定の機械遺産になっています。

・国立天文台は、以前 STF 見学会でも訪れましたが、再度の訪問です。緑豊かな敷地内に点在する大正時代の建物（第一赤道儀室、大赤道儀室）内の屈折望遠鏡および展示室での研究紹介を見学しました。

（木村芳一）



武蔵小金井駅前にて



はけの小路



野川に沿う景色



野川に沿って草木が広がる道を歩く



峯岸家の母屋（ビデオ案内を視聴中）



水車の動いている水輪



天文台の第一赤道儀室



天文台の大赤道儀室（天文台歴史館）